



講座名	緑を楽しむ講座（柏） 「縄文の繊維植物カラムシで作る」		
開催日時	2024年 7月 27日（土） 10時30分 ～ 14時30分		
開催場所	松戸市 21世紀の森と広場 森の工芸館	一般参加者	16名

活動概要：手間と時間のかかるカラムシ文化を 小さな糸の作品作り体験を通し短時間で味わっていただきました。



1. カラムシの歴史と繊維の未来についてのSDGs 紹介

江戸時代にワタを庶民も使えるようになるまで 服の自給自足を材料として支えてきた繊維植物カラムシ。それ故に古くからの農村地帯では、今でもカラムシが生き残っていて見つかることもある。それと、ビタミンなど栄養価も豊富だが、噛み切りにくいモチとした食感であることを聞いて、料理に挑戦する意欲を持たれた方々も発生。（見分け方：葉裏に短い毛が密集しているので真っ白で、手の平位の大きさの葉が茎に互い違いにつく互生）

今、私たちの服の70%は石油由来のプラスチック！！この服の洗濯によって海へ流れつくプラスチックが海へ流出するマイクロプラスチックの35%を占めるとのこと。このまま同じようにプラスチックを使い続けると26年先には魚の量よりプラスチックの方が重くなってしまいう計算があることなどをクイズを通してお伝えし、これらを踏まえた上で 天然素材を感じ取っていただいた。

繊維取り農家の夏の仕事・冬の仕事、未来へ向けて新しく工夫している繊維の仕事も紹介。

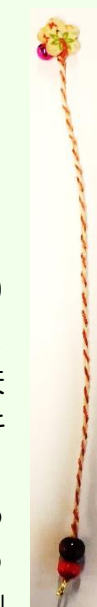
2. カラムシミニ体験 糸・紐作りと小物への成形

葉落とし、皮むきのコツが呑み込めることによって太く皮が良い状態でむけるようになり、手ごたえ、爽快感、面白さを味わっていただいた。逆に、繊維取りと双糸作りは根の要る仕事。手仕事で家族の服を草木から作っていた時代には「追い剥ぎ」が出没するほど作り出すのは大変なこと。そこで、作ることが楽なデザインと繊細で根気のいるデザインとを見ていただいた上で始



めた。それぞれのチャレンジと個性豊かな作品作りを楽しむことができた。

金具に新しい工夫をして繊維取りをする方法



も紹介したので、「パキッと音をたて、外皮を浮かして繊維を取った。カラムシ独自のやり方が面白かった。」との感想をいただいた。皮を強く引っ張ると外皮はパキッと割れて浮き、大切な繊維は伸びて別々に取りやすくなることを応用し、始めての人でもやりやすく工夫した方法である。また、繊維への染色苦労話（すくも藍、キハダ、アカネ）、ラミーカミキリ（輸入麻からの外来生物）などの展示解説が面白いとの感想もあった。アンケートでは、多くの方々から、「楽しかった。」満足度最高ランク5。また、「草にこのような繊維があって、服ができることに驚いた。」「昔の人の知恵が素晴らしいと思う。」「とっても楽しかった。植物から生活に使える実用の物が作れてうれしい」「(糸を)よるのはけっこう面白い。」など体験ならではの実感のある感想をたくさんいただいた。

講師 （チーフ講師：西河内ひとみ）